

## 7. 入居者参加のくらしとすまいの支援ネットワーク

くらしとすまいのネットワーク (KSN) 研究会  
首都圏

### 1. 活動の背景と目的

21世紀を目前にして、住まい手主体の住まいづくりの動きや研究、啓蒙活動が草の根的に広がっています。超高齢社会を豊かな時代にしていくためには、より快適な、或いは自己実現としての暮らしや住まいづくりが求められています。

しかし、多くの住まい手主体の住まいづくりは、制度的保障や公的支援もなく、孤軍奮闘しているというのが現状です。

また、一般の人々がそれらの活動や情報を知る機会は皆無といっても良いでしょう。そこで、「住まい手」が主体の「暮らしと住まいづくり」を支援し、普及し、情報を提供する核となる協働支援ネットワークが必要であると考え、1995年秋からその組織づくりを検討してきました。

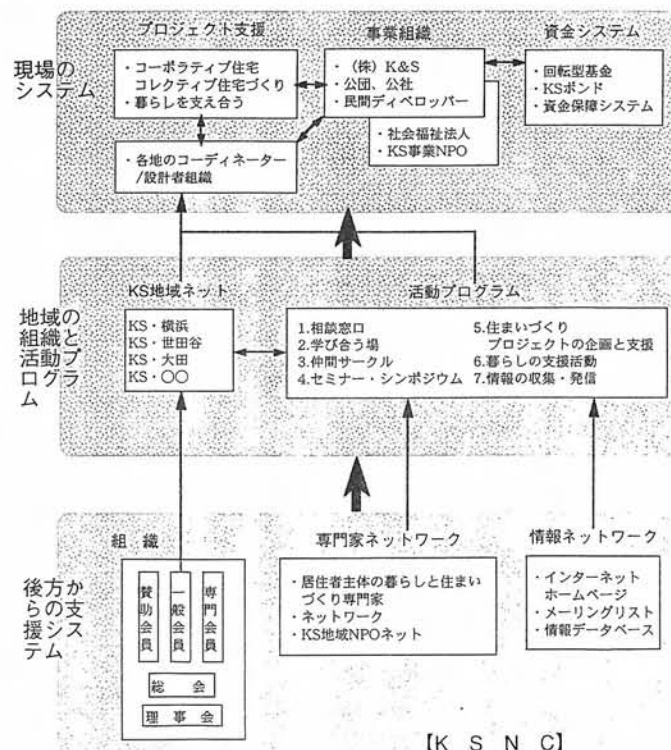
入居志向者、専門家、供給者の三者によるトライアングルのネットワークセンターです。

このセンターの設立により、参加型による暮らしや住まいづくりを普及し、より快適な暮らし・住まい・住環境の充実を目指すものです。

### II. 活動の内容

#### ① ネットワークセンター組織づくりの検討

数年来検討してきましたネットワークセンターのあり方は次のようになり、平成10年度の早い時期に発足することが決まりました。(6月に発足しました。)



## ②ネットワークセンターの活動内容の検討

ネットワークセンターでは、暮らしや住まいに関するさまざまな情報や学びの場を提供し、ネットワークによる後方支援を行ないながら「参加と共生の住まい・まちづくり」「自立と協同による自己実現」をすすめます。

### 《活動内容》

- 相談窓口の設置
- 学びあう場の開設
- 仲間サークルの開設
- セミナー、シンポジウムなどの実施
- 住まいづくりプロジェクトの企画と支援
- 暮らしの支援活動
- 情報の収集、発信

### 《会員への支援》

- 専門家の支援を受けながら、土地を探し妥当な価格の質の高い共同住宅の建設を実現することができる。
- 建築、法律、福祉、税務、健康などの分野の専門家から、助言を受けることができる。
- センターが主催するさまざまなセミナーなどに自由に参加したり、セミナーなどを企画したりできる。
- 暮らしを豊かにする仲間ができる。
- 会員はセンターが発行する情報誌によって、暮らしや住まいに関する情報を得ることができる。

## ③三者協働のフォーラム開催

「新しい暮らしと住まい」を知りたい人・つくりたい人・住みたい人が一同に集まる第1回フォーラムを開催しました。参加者数は63人でした。

フォーラムでは、参加型の住まいづくりを分かりやすく事例紹介した後、次の4つのテーマに分かれて参加者でワークショップを行ないました。

- ・「高齢期を元気に暮らすために」
- ・「健康・省エネの暮らしの実践」
- ・「子育てと仕事を楽しく両立する住まいとまちづくり」
- ・「地域を支える市民事業を起こそう」

最後は有機野菜や産直品を使っの立食パーティーで、参加者どおしの情報交換・交流を行ない、今後のネットワークのきっかけづくりの機会となりました。



第一回フォーラム風景

## III. 活動の効果及び今後の課題

### ■活動の効果

住まい手、専門家、事業者の三者を対象としたネットワークづくりを目指して、様々な企画や開発、ワークショップフォーラムの開催などを実施してきましたが、その効果は次

のように考えられます。

- ①マスメディアを通じて活動が広報されたことで、一般の人にも知られるようになり、問い合わせや、相談、参加の希望などが寄せられたこと。
- ②各地域の暮らしと住まい活動グループとのコンタクトが出来て、今後のネットワークの基礎ができたこと。
- ③それらの各グループの活動目的、活動内容、ニーズ、活動における問題点が見えてきて、ネットワークセンターに期待される役割がはっきりしてきたこと。
- ④グループの活動を具体的な住宅建設プロジェクトにつなげて行くためには、専門家と事業者とのトライアングルの協働が必要であることが明確になってきたこと。
- ⑤ネットワークセンターのために活動してくれるコアメンバーが集まってきて、今後の活動がやりやすくなってきたこと。
- ⑥ネットワークセンターの仮本部がつくられて、実際の活動の第一歩が動き始めたこと。

#### ■今後の課題

- ①活動のための当初資金の調達とその後の運営資金をどのように作り出すかは、いくつかの方法を考えているが未確定である。
- ②ネットワークのためのマルチメディアの活用についての開発はまだ検討過程である。
- ③グループ活動を支える社会的金融システムの開発についてもまだ検討中である。
- ④具体的なプロジェクトをネットワークセンターが企画し、推進してゆくシステムと体制について検討中である。
- ⑤住まい手、専門家、事業者のそれぞれの組織化と三者の適切な協働システムの開発は今後の課題である。